

< 海外情勢 >

## ヒラリー・クリントンのロシア・スキャンダル

藤井 巖 喜 (国際政治学者)

現在、アメリカではヒラリー・クリントンのロシア・スキャンダルが大爆発している。このロシア・スキャンダルを見ると、かつてのニクソン大統領の「ウォーターゲート事件」が冗談と思えるほどの深刻な政治腐敗問題である。一言で言えば、国家の安全をカネでロシアに売り渡していたという一大スキャンダルなのだ。これは最早、疑惑ではなく事実関係は既に確かめられている。ヒラリー・クリントンは、国家反逆罪で逮捕されても仕方がないような状況に追い込まれている。しかし奇怪なことに、民主党と共和党のエスタブリッシュメント（既成支配層）は、大手マスコミと一体となって、ヒラリー・クリントンを擁護している。

このヒラリー・クリントンのロシア・スキャンダルについて説明しよう。オバマ第1期政権でヒラリー・クリントンは国務長官を務めていた。この時、「ウラニウム・ワン」というカナダの会社がロシア政府の原子力機関「ロサトム (ROSATOM)」に買収されたのである。このウラニウム・ワン社はカナダの企業ではあるが、アメリカ国内のウランの20%を所有している。20%というのはウラニウム鉱山ばかりでなく、濃縮ウランの所有を含むものである。ウラニウム・ワンは一種のアメリカの国策会社でもあったのだ。

そこでウラニウム・ワンのロシアによる買収には、当然、アメリカ連邦政府の許可が必要となった。当時、この決定に関わったのはヒラリー・クリントン国務長官、エリック・ホルダー司法長官、ティモシー・ガイトナー財務長官の3人であった。3人の中でも特に、クリントン国務長官は、このロシアによる買収に許可を与えることに積極的であった。そもそもロシアはアメリカの軍事上のライバルである。かつてのソ連は崩壊したが、世界第2の軍事大国はロシアであり、両国は様々な地域で微妙な対立関係にある。現在、中東では対IS掃討作戦において、アメリカとロシアは協力している。しかし北朝鮮に関していえば、アメリカは北朝鮮の核保有を許さない厳しい態度をとっている。一方、ロシアは北朝鮮の立場に同情的であり、プーチン大統領はアメリカの対北朝鮮批判から北朝鮮を擁護する発言を行っている。核戦略においては、米露両国は間違いなくライバル関係にある。

このような国にアメリカの国策会社の売却を許すということは、明らかにアメリカの国益に反する行為である。ロシア政府はオバマ政権がスタートした 2009 年からこの件でオバマ政権への働きかけを開始した。恐らくオバマ政権がリベラル左派の政権であり、国防問題には見識がなく、与（くみ）しやすいと考えたのであろう。ともかくも、この買収は 3 段階で行われ、最終的には 2013 年にロサトムによるウラニウム・ワンの買収は完結してしまった。ウラニウム・ワンはロシア政府の傘下企業となってしまったのである。

流石にアメリカ議会の共和党のタカ派はこの売却がアメリカの国防にとって極めて危険なものであると声をあげたが、問題は大きくなることなく企業買収は完了してしまっただけである。実際その後、アメリカからカナダへのウランの輸出が行なわれ、カナダからヨーロッパにこのウランは更に輸出されている。米国からの濃縮ウランの海外輸出は、法律で禁じられており、このような事が何故、起きたのかと言えば、明らかにクリントン国務長官やオバマ大統領自身の意図的なサボタージュの結果である。アメリカ国内から海外に濃縮ウランを輸出する場合は、特別な許可があるのだが、全くそういった許認可もなく違法の内に、ウラン原料の輸出が行われてしまったのだ。当時の FBI も CIA も、この違法行為を知らず、一切、止めようとしなかった。

## ロシア関係者からクリントン財団への巨額献金

このウラニウム・ワンの買収許可だけでも、ヒラリー・クリントンは国家反逆罪に値する重罪人であると言ってもよい。しかし更に大きな問題が発覚した。クリントン財団は、ウラニウム・ワン買収の関係者から、何と総額 1 億 4500 万ドルに及ぶ献金を受け取っていたのである。ヒラリー・クリントンは国益をロシアに売り渡して、その賄賂をロシアやウラニウム・ワンの関係者から受け取っていたのである。アメリカ政治史最大の政治腐敗と言ってもよいだろう。

クリントン財団は表向きは慈善団体ということになっているが、事実上はクリントン・ファミリーの財布同様の存在である。実際に慈善事業に出費している金額は集めた献金のたった 1% 程度ともいわれている。アメリカの国益をロシアに売り渡し、約 160 億円以上の現金を手にしたのである。これを国家反逆罪と言わずして、何といたらよいのだろうか。献金は 9 つの異なった団体や個人から行われたというが、みなロシア関係者かウラニウム・ワン関係者である。

更に分かっている事実がいくつかある。ヒラリーが国務長官を務めている時に、ビル・クリントン元大統領は、ロシアの政府系投資銀行に招かれて、モスクワで講演を行ない、1 回の講演で 50 万ドルもの多額の謝礼を受け取っている。これは通常

の彼の講演謝礼の2倍の金額であると言われている。又この時には、プーチン大統領と直接会談している。

ロシア政府系のウラン企業のトップ、イアン・テルファー氏は、実名を明かさずに4回にわたって、クリントン財団に献金を行なった。その総額は235万ドルの巨額である。こういった事実に関しては、流石に隠しておくことは出来ず、クリントン支持派であるリベラルのニューヨーク・タイムズなどもその事実関係を報道し始めている。

## ヒラリー、ロシア・スキャンダルの中心人物だったミュラー特別検察官

現在、トランプ政権の所謂「ロシア・ゲート疑惑」の特別検察官に任命されているのが、ロバート・ミュラー氏である。このミュラー氏は、実はヒラリー・クリントンがウラニウム・ワン買収推進に動いていた時の現役のFBI長官であった。本来、この買収劇を止めるのがFBI長官の果たすべき役割であった。しかしミュラー長官は、クリントン国務長官に協力して、ロシアへのウラニウム・ワンの株式譲渡やウランそのものの不法輸出に積極的に関与していたのである。謂わば、ミュラー氏はクリントン・チームの一員なのであり、彼がロシア・ゲートの特別検察官であるというのは、あまりにも異常な事態である。

ミュラー氏が任命した検察官の多くが、実はヒラリー・クリントンの人脈に属する人物であることが既に明らかになっている。このような腐敗した人事が行われた原因は、司法省のエスタブリッシュメントに包囲されてしまったセッションズ司法長官が、誤った判断を下した為である。セッションズ氏は、トランプ大統領の指名で司法長官になったが、周辺はオバマ時代からの政府高官が留任しており、彼らにミスリードされてミュラー氏を特別検察官に任命してしまったものと思われる。つまりミュラー氏は、ヒラリー・クリントンの米国史上最大とも思われるスキャンダルを隠蔽してきた人物なのだ。

## 幻のトランプ・ロシア・ゲート

ミュラー特別検察官は、10月30日にポール・マナフォート氏を起訴している。マナフォートは2016年の大統領選挙で、トランプ陣営の選挙対策部長を途中まで勤めていた人物である。しかしマナフォート氏が起訴された内容を見ると、ロシア政府とは無関係なものばかりである。一番大きな罪状は、ウクライナ政府の依頼を受けて、アメリカでロビイングを行なったというものである。このウクライナ政府がロシア寄りだったというので、ロシア・ゲートだと騒いでいるのだが、ロシア政府やプーチン大統領が直接絡んだ事件ではない。そもそもアメリカでは外国政府の依

頼を受けて、議会や政権に対して働きかけを行なうことは合法的なビジネスである。これを通称「ロビイング」といっている。ロビイングを行なえば、多額の謝礼を受け取ることも当然であり、又、合法的でもある。

ミューラー特別検察官は、散々にトランプ陣営の捜査を行なったが、ロシア・ゲートと呼べるものは何一つ発見できなかったのだ。様々な噂話があったが、調査してゆくと実体のないものばかりであった。要はトランプ大統領の所謂「ロシア・ゲート問題」は全く実体がないことが既に明々白々なのである。まるで森友学園問題と加計学園問題で大騒ぎしたが、安倍首相の贈収賄などが全く発見されなかったのと同様である。謂わば政敵によって仕掛けられたスキャンダルであり、噂以上のものは全く存在しなかったのだ。

今から考えると、ヒラリー・クリントンは、自らロシア・スキャンダルを抱え込んでいるので、これを隠蔽する為に敢えてトランプ側にロシア・スキャンダルがあるということを騒ぎ立てたのであろう。トランプを冤罪に陥れて、自らが犯した罪を隠す煙幕にしようという腹積もりであったのであろう。

## クリントン・クライム・シンジケート

アメリカではクリントン夫妻を批判する時に、「クリントン・クライム・シンジケート」という言葉がよくつかわれてきた。クリントン夫妻の周辺では、既に60人を超える人々が不審死を遂げている。自殺や事故死と扱われているが、口封じの為に消された可能性が濃厚である。犯罪シンジケートという表現を始めて聞いた時は、筆者も流石に大げさな表現ではないかと思った。しかし今日に至るまで、この夫婦のやってきたあまりにもダーティー過ぎる政治を見ると、「クリントン・クライム・シンジケート」という言葉は必ずしも大袈裟な表現とは思えなくなった。

トランプはこのシンジケートと徹底的に戦う大統領である。しかしこの犯罪シンジケートは、民主党・共和党の暗部に増殖してしまったダークなエスタブリッシュメントの一部である。それはマスコミの中の腐敗とも勿論、繋がっている。この腐敗の現実をトランプは「ワシントンのドブ泥」と呼んだのだが、このドブ泥の政治力は甚だ強力である。トランプは草の根のアメリカ人の後押しを受けて、このドブ泥をワシントンから一掃する為に戦っている大統領である。